

特別優秀賞

しんせつのたねまき

鹿児島県 星峯東小学校 一年

川畑 奏空

「だれのぼうしかな。」

学校のかえりに、雨でぬれたぼうしを見つけました。そのままおいていこうか、ぼくがつれてかえろうか、こまっちゃいました。ぼうしがなみだをながして、

「はやくうちにかえりたいな。」と、いっているように見えました。

「よし。ぼくがつれてかえろう。このぼうしをおとしたおともだちも、こまっちゃいるだろうな。」はしつていえにかえって、おかあさんにぼうしのせんたくをおねがいしました。

「いそいでせんたくするね。あした、学校でおともだちにわたしてね。」

つぎのあさ、なっていたぼうしはきれいになって、ニコニコしていました。

「よし。まいごのぼうしをとどけるぞ。」

と、きょうしつをとびだしたけれど、「四年生のきょうしつはどこかな。いったことがないからこわいな。」と、ぼくはどきどきしました。

「トントントン。一年二くみのそらです。あおいさん、いますか。ぼうしをとどけにきました。」

「うわあ。わたしのぼうしだ。ありがとう。」

あおいさんはにっこりしていました。ぼくは、(がんばってとどけてよかった)と、こころのなかでガッツポーズをしました。

きょうしつにかえって、先生に、「ぼうしをとどけました。」というと、「いいことをしましたね。」と、あたまをなでてほめてくれました。

つぎのあさ、あおいさんがぼくのきょうしつにきました。

「そらさん、うれしかったよ。はいどうぞ。」

と、ちゃいろいふうとうをぼくにわたしました。いえにかえってふうとうをあけると、

『ぼうしをさがしても見つからなくて、とてもこまっていたよ。ぼうしをひろって、おせんたくして、きょうしつまでとどけてくれて、ありがとう』とかいてありました。

おてがみをよんでいると、ぼくのこころはポカポカになりました。

「なっていたぼうしも、あおいさんもこまっていたんだな。どきどきしたけど、ぼうしをひろって、とどけてよかった。」と、ぼくはおもいました。

いっしょにてがみをよんだおかあさんが、

「そらがひろったぼうしで、あおいさんだけでなく、そらやおかあさんたちも、あたたかいきもちになったよ。」と、ぼくをぎゅっとしてくれました。

ニッコリわらったおかあさんを見ると、ぼくは(しんせつは、みんなをえがおにするんだ)とおもいました。あおいさんからもらったおてがみは、そおっとたからばこにしまいました。

ぼくは、これからも、まわりにいる人のこころがぽかぽかになる、しんせつのたねをたくさんまこうときめました。